

第4学年「体育」学習指導案

授業者 和氣 拓巳

2月14日（金）1階体育館 10:00～10:40 （話し合い 11:00～11:45）

1 単元名 「とぶ」—思い通りにならない身体であそぶ—

2 単元について

頭ではわかっていても身体が言うことを聞かず、自分の身体ではないみたいだと感じた経験はないだろうか。例えば、もっと速く走りたいのに足が上手く動かなかったり、発表会が迫ると緊張して身体が震えたり、病気になると身体が重く感じたりといった具合だ。そう考えると、わたしの身体は、わたしの一部（もしくはわたしそのもの）であるにもかかわらず、思い通りにならないというもどかしが生じる。この身体の不自由さに着目し、今年度の4年生は、「思い通りにならない身体」をテーマに、「身体を知る」ことを目的として体育を展開してきた（体育部提案参照）。例えば、自転車に乗れない人が、うまくバランスが取れなくて試行錯誤を繰り返す。そのうち、こつを掴んでくると、こつを意識しなくても、無意識的に自転車に乗れるようになる。このように、身体は、思い通りに動いているときには知覚されず、むしろ思い通りに動いていないときに自分の中に現れる。そうして現れた身体を思い通りに動かしていこうとすることが、「身体を知る」ことにつながると考えた。

今回は、「とぶ」をテーマとした。ここでの「とぶ」は「足で跳んで足で着地すること」と定義する。そうした制約の中で、子どもたちは、遠くへ跳んだり、高く跳んだり、連続で跳んだりする中で、「思い通りに跳べない」ことをきっかけにして身体が現象し、「どのように身体を動かしたら跳べるのか？」について考えていくことになるだろう。身体の動きは、自分で狙った動きと、実際の動きとの間には差が生じるものだ。さらに、自分の動きをリアルタイムで確かめながら、動くことは難しい。そうした中で、【動く-ふり返る-動く】を繰り返し、立ち止まり、考えながら自らの身体感覚に意識を向けて修正していく。また、自分の身体の現れについて、他者に意見を求めたり、ICT機器で録画したりすることで、イメージとリアルとの差を埋めていくこともある。様々な学び方を自分自身で選択しながら、異質な他者とともに互いに影響を及ぼしあい、自分の思い描く理想の「とぶ」を探究していく過程の中で「身体を知る」ことに迫っていく。

「とぶ」の場は、子どもたち一人ひとりがそれぞれの必要感のもと準備する。あらかじめ教師が意図して設定した場で、子どもたちが遊ばされることがないようにするためである。「身体を知る」過程の中で、自己-他者-モノと自ら関係をつくっていくこと（エージェンシーベースの関係づくり）が、体育の時間で最も大切にしている視点である。その中で、教師は子どもたちの活動を見守りながらも、子どもを追い越さず、子どもとともに探究していくのである。

3 学習指導計画（5時間目／全9時間）

前半（1・2・3時間目）	「とぶ」のコンテンツをクラスでつくり、やってみる。探究する。
中間共有（4時間目）	どんなことをしたのかを共有するとともにコンテンツを見直す。
後半（5・6・7時間目）	自分の「とぶ」の探究を進める。
最終共有（8・9時間目）	探究をまとめ、意味づけ、聴き合う。

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

自分なりの「とぶ」の探究に向かい、試行錯誤を繰り返して、「身体を知る」ことに迫る。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 「とぶ」場を準備する。 2 自分が夢中になれる「とぶ」を探究する。 3 サークルになって今日のことを分かち合う。	● 安全に配慮して準備できるように声をかける。 ● 子どものやりたいことと、教師が担う責任との間に立ち、子どもにかかわる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

子ども一人ひとりの、「身体を知る」ことに迫る姿について。